［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成19年 6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７１０００２４６
法人名	（株）ほーむけあいしやま
事業所名	グループホーム　藍藍
所在地 （電話番号）	茨城県下妻市長塚乙　11の1 （電　話）0296-30-5008

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台４－９－３　D101		
訪問調査日	平成19年6月29日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】（平成１９年６月１日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14 年　7 月　31 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	15　人	常勤 14 人，非常勤 1 人，常勤換算 15 人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋　造り	
	1階 建ての　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	36,000　円		その他の経費（月額）	12,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	450　円
	夕食	450　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要

利用者人数	18 名		男性	1 名	女性　17 名
要介護1	2	名	要介護2	6	名
要介護3	6	名	要介護4	3	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高　98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	坂入医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内ではあるが別棟の2ユニットであるため、利用者は新鮮な感覚で別棟に出掛けている。 事業所の理念のほかに月ごとに目標をたて、管理者、職員が共有し、それを念頭に置いてケアに努めている。 職員と利用者が一緒に育てた生花がホームのあちこちに飾られ、温かい雰囲気作りとなっている。 地域住民との交流は盛んであり、併設のデイサービスと連携し、地域に還元しようと積極的に取り組んでいるホームである。半年毎の外出支援は全利用者参加で開催している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での主な改善課題として、利用者の経験を生かしたケアと地域交流が挙げられたが、職員会議にて話し合いを行い改善した。 管理者、職員の聞き取り調査、関係書類からも確認された。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価、外部評価に対する取り組みは、管理者、職員で共有し積極的に取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

行政、民生委員(自治会長)、利用者家族、専務，各ユニット管理者の出席の下会議が開催され、ケアの内容を報告し、意見を聞いている。 ふれあいコンサートの参加呼びかけを地域に向けおこなった。 議事録に残し、職員とも共有している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見箱の設置、家族への連絡や情報提供は面会時は勿論、郵送にて近況報告を行っている。意見を言い出しにくい家族への配慮として、家族会での発言の場を提供をされては如何でしょうか？

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域主催の行事への参加、ホーム主催の行事やコンサートに地域住民が参加し利用者と共に楽しんいる様子が話の内容から窺える。 中学生の体験学習、高校生のボランテイアの場として提供しており積極的に活用されている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体事業所の高齢者を大切にした4つの理念のほかに、ケアの精神である（感謝、感心、感性、共感、感動）を基に、毎月目標を立てている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、夜勤者の申し送り時や職員会議時に理念を確認し、それに向けたケアを実践している。 職員の聞き取り調査からも、管理者、職員間の共有意識としていることが窺える。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し、夏祭り，空き缶拾いに参加している。ホーム主催の行事に家族は勿論地域住民の参加を呼びかけている。 ふれあいコンサート（篠笛、琴）には50名近い参加があり大いに有意義であった。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員に目を通してもらい、全員の意見を聞きながら作成した。外部評価に対しても意識を理解し、前回の評価に関してもすぐに改善に向けた職員会議を開催し、取り組んでいる。職員の前向きな姿勢が窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員（自治会長）、専務、管理者、利用者家族で運営推進会議を行い、サービスの内容、行事の参加呼びかけ等を行い、その場で意見を吸い上げ、サービスの向上に努めている。 尚利用者家族の全員の意見を聞きたいというホームの考えから、順番に参加を願っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催の勉強会の参加、中学生の総合教育の体験学習の場、地域交流会に社協を呼びかけ高校生のボランテイアの参加がある。 生活保護の受け入れを行い、行政との連携を図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度の写真を同封し近況報告、金銭管理報告をしている。 その写真を楽しみにしている家族が多い。 面会時にも個々にあわせた報告のほか、新人職員の紹介も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に向けた設置場所を配慮した意見箱の設置、重要事項説明書にホームの苦情責任者、市町村の担当課の明記をしている。		意見の言い出しにくい家族に対し、家族会を利用し意見を表せるような機会を提供されることを望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は出来るだけ離職が少ないように努力はしているが、結婚等で離職する場合は十分な引継ぎを行い、利用者に影響しないよう努めている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、中間、管理者と経験に応じた研修の参加を促している。、研修内容、反省点を記載し全職員で共有している。職員会議でも報告をしている。 内部研修には講師を呼んで行っている。 研修費用は事業所負担、日勤勤務になるので職員にとっては非常に参加しやすい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、茨城グループホーム連絡協議会に加入。 市内の3箇所の連絡会が年3回開催され、管理者の勉強会や交流会を持つことにより質の向上に努めている。 系列の職員の交換研修を行い、それぞれの系列ホームの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談があった場合は、事前調査、訪問、面会、ホーム見学、入所体験をし、徐々にホームの雰囲気になじめるように相談しながらサービスの利用をするように努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事時間という少ない時間ではあったが、職員が利用者に常に感謝の言葉を述べている。 又職員が利用者から郷土料理や浴衣の着付けなども教えてもらったりして意思疎通などのコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を問いかけの仕方の工夫により意向の把握に努めている。 困難な場合は利用者の表情から検討している。 職員間での話し合いの場でも本人本位であるか？と確認しながら検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいたケアの他、気づいた点を業務日誌に記載、利用者や家族の希望を聞き、職員会議での話し合いの上、課題とケアのあり方についての意見交換を経て、介護計画書を作成している。作成後は家族に報告し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期3ヶ月、長期6ヶ月の期間を設定し、見直している。変化が生じた場合はその都度見直し現状に応じた計画を作成している。 個人のケース記録はケアプランに合った記入がされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスに行ったり、デイサービス利用者がホームに来たりしている。 ショートステイから入居した利用者も居る。地域住民に対しても相談にのっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を支援している。 変化があれば家族への報告はきちんと行っている。 家族が付き添った場合も家族から報告を受けている。 協力医院は24時間体制で連絡を受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルがあり、過去に全職員体制で終末期を迎えた入居者に対し、医療連携のもと、事業所の看護師が連日夜間に詰めてくれた。終末期に向けた話し合いは家族、医師、看護師、管理者、専務とその都度行い、同意書をとっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を理解の上、記録の管理を徹底している。 家族との話し合いの場は確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、利用者の要望がある場合は出来るだけ要望に沿うよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立、食材買出し、調理、味付け、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど利用者と職員が一緒に楽しそうに行っている。利用者の呼びかけにより、リハビリを兼ね夕食前に歌を歌ったり、体操を行っている。利用者が収穫した野菜がふんだんに食卓に上っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者に対して毎日入浴支援を行っている。時間帯は利用者に合わせている。 あまり入浴を好まない利用者に対しては週3回は入るように支援している。風呂桶や湯船は檜製で利用者に対する工夫が窺える。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴、生活歴を把握し、個人にあった役割作りに努めている。（編み物、洋裁、塗り絵、畑仕事、掃除、料理）		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	半年毎の外食、健康センターへの外出は利用者全員参加で支援している。 日々の散歩、食材の買出し等、外出による五感の刺激に努めている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者、職員は鍵を掛ける事の弊害を理解し、日中は施錠は行っていない。 利用者の様子から外出傾向を把握し、後ろからついて行く様に支援している。 近隣の協力もあり情報をうけたケースもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力の下、夜間を想定した災害訓練を、年2回実施してきちんと記録している。 利用者の非常食、飲料水は確保している。	○	訓練の参加を地域の住民によびかけ、災害時における、お互いの協力体制を作っていくことを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスの指導を受けている。 食事、水分摂取量をケース記録に記載している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の大きな梁、高い天窓により利用者が心地よい空間に過ごせるように工夫している。 玄関前は利用者が手入れした草花が咲いている。 畑で咲いたグラジオラス等の生花があちこちに飾られ、利用者や訪問者にとって温かい雰囲気である。 リビングの畳のところでのんびり横になっている利用者の姿が見受けられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように、なじみの箪笥、座椅子、テレビ、仏壇が持ち込まれたり、家族の写真が貼ってある。 宿泊希望の家族に対しての支援も行われている。日付などすぐ分かるように母体事業所から各居室にカレンダーが贈られている。		